



農作物ロスの削減を活用したフレイル予防の提案



縄田佳志^{1,3}、岸本裕歩^{1,2,3}、江川博史^{2,3}、江川心³

- 1.九州大学大学院人間環境学府
- 2.九州大学基幹教育院
- 3.九州大学岸本裕歩研究室農作物ロス削減プロジェクトチーム

COI：発表内容について、開示すべきCOI関係にある発表者や企業等はいません。

背景

- 日本は少子高齢化、核家族化、地方の過疎化などにより、高齢者が社会的な繋がりを失い、要介護者、特にフレイル（身体機能が低下し、日常生活に影響が出始める状態）の重症者などへの対応が追いつかない状況である。
- 日本では、年間523万トンの「食品ロス」が生じている(令和3年度 農林水産省)。
- これらの課題を解決する為、自治体、地場産業、地域市民などによる組織横断的な連携により、地域の自立的・継続的支援体制の強化に取り組んでいく必要がある。

方法

対象

糸島市民ならびに観光客



アプローチ

糸島市在住の高齢者と地域社会を結びつけるプラットフォームの構築

地域社会資源データベース

フレイルチェックにて取得された身体機能に関する情報や社会資源、農産物の生産状況などを一元管理する目的

マッチングサービス

住民の「できること」や「手伝ってほしいこと」等を共有しマッチングする目的

プロジェクトスキーム

過剰生産した野菜のお裾分け
住民や観光客との交流
フレイル予防

高齢農業者

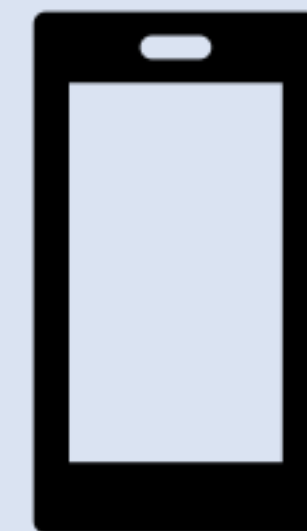


糸島市民・観光客



糸島の新鮮な野菜を取得
農作業のお手伝い(体験学習の場)
社会参加、地域活性化

マッチングサービス



地域社会資源データベース



大学・行政・自治体



- ・ 高齢者
- ・ 8050引きこもり中年者
- ・ 子育て世代主婦/主夫
- ・ 大学生、高校生
- ・ 子ども

想定データ

年齢、性別、住所、フレイル状態、マッチングサービスの利用目的、育てている農作物、収穫時期など

データベースの整備、効果測定

情報・場所提供、宣伝
制度上のサポート

期待される効果

【高齢者の孤立予防と社会参加の支援】

マッチングサービスにより、交流する場の提供や幅広い層との交流のきっかけづくり

【フレイル予防】

農作業を通じて身体的フレイル、社会参加や住民・観光客との交流により精神・心理的フレイルの予防につながる

【フードロス解消】

本来なら廃棄するはずの野菜が、マッチングサービスを通じてニーズのある層へ提供されることでフードロスの解消や地産地消にもつながる

検討事項

- ・ 対象層の特性を加味したICTの具体的な活用方法（提供農家の募集、消費者への告知）
- ・ 効果測定方法（地域活性化、地域貢献などのアウトカム設定）
- ・ コミュニティにおけるマナーやルールの設定
- ・ 持続可能性の担保